

国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学
第88回経営協議会議事要録

日 時 令和2年9月17日（木）13:00～15:30
場 所 北陸先端科学技術大学院大学 第1・第2会議室（国際交流会館1階）
出席者 寺野稔（議長）、永井由佳里、飯田弘之、西山和徳、黒田壽二、細野昭雄、
水田博、相澤益男、井熊均、岩澤康裕、小俣一夫、澁谷進、中尾正文及び
平澤冷の各委員
欠席者 久和進、谷本正憲委員
オブザーバー 三宅幹夫監事、水野一義監事、西本一志学系長、上原隆平学系長、
山口政之学系長、塚原俊文学系長及び南良一石川県企画振興部課長

議事に先立ち、議長から、事前に送付した令和2年6月18日開催の第87回経営協議会の議事要録（案）について、資料1に基づき説明があり、原案のとおり承認された。

議 事

<意見交換>

1 JAISTの現状について

学長から、JAISTの現状について説明があり、その後、意見交換が行われた。

- ・4月に学長に就任されて以降、具体的な戦略目標に向かって取り組みが進められており、非常に心強く感じている。学長ビジョンを作成中とのことだが、いつ頃完成する予定か。
⇒学長ビジョンは、令和4年度より始まる第4期中期目標・中期計画のベースとなる、基本的なビジョンという位置付けで作成するため、遅くとも年内、できればもう少し早い時期に完成し、オープンにできればと思っている。
⇒まさに学長ビジョンと第4期中期目標・中期計画の関係を伺いたかった。昨年度、JAISTが第4期に何を特徴付けてどのような戦略で進むべきかということ、文部科学省とかなり意見交換されたことと思う。それをより具体化するという意味で、学長ビジョンが極めて重要になると考える。また、「世界トップレベルの研究大学を目指す」という意気込みは評価しているが、今回のご説明では、そのための取り組みの特徴が見えないように感じたため、その点を学長ビジョンでぜひ明確にしていきたい。加えて、一研究科体制をどのように展開させて、更なる特徴付けをしていくかということについても明確にされるとよい。
- ・JAISTの経営に関わる組織として、JAISTの支援財団とJAIST支援機構があるとのことだが、学長として、これらの団体に対し、どのような姿勢で接し、何を望んでいるのかをご説明

いただきたい。また、併せて支援財団と支援機構との位置付けについてもご説明いただきたい。

⇒支援財団は、大学名が入っているものの、本学とは完全に独立した組織であり、支援財団のご判断の基に、本学の様々な活動に対して多大なご指導を賜っている。現在は、北陸電力の会長、北陸経済連合会の会長であり、本学の経営協議会委員にも就任いただいている久和様が、支援財団の理事長をされている。そういう意味では、支援財団は、北陸全体の経済圏の中で大きな視点からの支援という形で捉えている。

一方、支援機構も独立組織ではあるが、例えばMatching HUBや共同研究、社会人教育に関する支援等、JAISTが取組む活動に対する直接的なご支援をお願いしたいと考えている。

- ・工科系の大学では、OB会が資金面でも企業との連携においても強力に大学をバックアップしてくれることが多い。JAISTもいよいよ30周年を迎え、初期に企業に就職された方が50代になられた頃だと思うので、そろそろそのような仕組みを作られたらいかがか。それが産業界との接点を増やす結果にもなると思う。

⇒既に本学に同窓会組織は存在するが、やや特定の分野の修了生に偏っているのが現状。創立30周年を機に、この同窓会を徹底的にてこ入れし、資金援助はもちろん、学生獲得や就職等も含めてご尽力いただけるような組織にしたいと考えている。加えて、ベトナム、タイ、インド等、連携相手として本学が重要視している国々に、現地のOB会を作ろうと考えている。これは学生獲得、学生生活への支援や、修了生の就職支援をお願いしたいという意図で、例えばそれぞれの国で大学や公的機関のポストに就いている方をリーダーとする等により、きちんと組織化していきたいと考えている。

- ・すべての分野で世界一の大学になるということはある得ないわけで、どのような形での世界一を目指すのかということが重要になる。その一つの方向性として、この地域は、大学、産業界、自治体の距離感や連携に特徴的なものがあると感じたので、その中でのJAISTということを客観視し、その在り方を探求することで、面白いものができていくのではと考える。

⇒どのような形での世界一かということについては、今後、本学の研究力分析の結果を活用し、検討していきたい。地域連携については、世界トップの研究を背景にした地域貢献ということで、この地域なりの産業の素晴らしさを考えながら、この地域にある大学としての貢献を考えていくということが、世界一を目指すという中での一つの特色になると考えている。

- ・JAISTの新型コロナウイルス感染症に関する様々な取り組みについて、素晴らしい対応をされていると感じた。企業でも日々模索しながら取り組んでいるが、これからは、リモートとリアルを上手く組み合わせ、それぞれの良いところ取り入れることができる組織が強くなっていけると思う。ぜひJAISTが官民の壁を超えたベストケースとなってほしい。

2 理事等の担当業務について

永井理事，飯田理事，水田特別学長補佐，丹副学長，内平副学長及び塚原副学長から，理事等の担当業務について，資料2-1，2-2，2-3，2-4，2-5及び2-6に基づき説明があり，その後，意見交換が行われた。

- ・研究支援に関するビジョンはよく理解できたが，国際連携に関しても，世界トップレベルの研究大学という目標に見合う明確なビジョンを掲げる必要がある。海外の機関との連携協定を何件結んだという数自体が重要なのではなく，何のための連携協定，国際連携なのかという視点が重要。例えば，人類的課題や地球規模の課題，あるいはもう少し一般的な社会課題について，一大学ではできないから，世界の様々な機関と連携して解決していく。その際のリーダーシップをとっていくことが世界トップレベルの大学の役割になるので，そのような視点から，JAISTは何ができるのかと考えるのが本当の国際連携の在り方である。これは国際共著論文の件数についても同様で，数を増やすという結果そのものに汲々とするのではなく，何のために国際共著論文の数を増やさなければならないかというビジョンを明確に持つことの方が重要。今，研究は国際競争の時代から，共に創造していく，共創の時代に入っている。グローバルな研究組織体制を構築し，国内はもとより，世界を相手に共に創造していくという方向に向かうことができれば，その結果として国際共著論文の数は伸びてくるものと考ええる。

⇒国際連携は何をできるかが重要というのはまさにご指摘のとおりであり，現在，JAISTサイエンスハブの構築のため，特に学内4拠点のエクセレントコアの強化・発展に取り組んでおり，そこで実施する研究プロジェクトをどのように世界に広めていくか，あるいは海外のどのような大学・研究機関と連携・共創ができるか等の検討を行っているため，追ってご報告したい。

- ・水田特別学長補佐が中心となって進められているデータ分析について，非常に良い取り組みであると感じたし，JAISTがこの規模の大学として何をやろうとしているのかがよく理解できた。このような分析によって，JAISTの強みが時間軸でどう変化しているのかが見えてくるので，それをぜひ整理してほしい。逆に，世界トップレベルと比べてどこが足りないのか，また，その足りないところはどこの研究機関が強いのかということもデータ分析によってわかるので，連携先の検討に活かしてほしい。

⇒時間軸の変化については，前回の会議にてご示唆いただいた後，重点的に分析を行っている。1年ごとにデータを並べていくと，世界的なトレンドとしてトピッククラスターがどこにあるかということと，その中でJAISTの強みはどこにあるかという2つの要素を重ねて見ることができるので，これは非常に有用であると感じている。研究者は，ある程度，直感でここが強い，ここを伸ばすべきだと思っているものだが，やはりデータとして可視化できるとその裏付けにもなるので，今後も重点的に取り組んでいきたい。

- ・JAISTは分野構成が非常に特殊であり，マテリアル分野での引用度と知識・情報分野の引用度とを単純に比較することはできない。そこで分析の際に補正係数を用いるわけだが，この補

正係数が極端に大きくなると、その係数自体にどれほどの信用性があるのかという問題になり、分析結果の信頼性が失われてしまう。よって、あまりいろいろな係数を使わず、素のデータによる分析というのがあっていいと思うが、どのように考えるか。

⇒ご指摘のとおりであり、私も分野補正についてはかなり疑問視している。実は先ほどお見せした資料の中でも、アカデミックインパクトについての右側2つは分野補正なしでお示ししている。まずは素のデータを見て、それが分野補正をしたときにどう変わるか、ということをお細かく見ていく必要があると感じている。

⇒例えば、知識では、論文を日本語で書くということもあるのではないかと思う。英語論文だけで議論しているとそこが全部落ちてしまうので、日本語でのインパクト、日本国内を意識したインパクト、そういうデータも少し取ってみてもいいではと思う。

⇒まさにご指摘のとおりで、もちろん日本語の論文もある程度データを取っているのですがこの分析の中には入っているが、知識は世間一般の指数で測れない部分が多く、独自のKPIをどれだけ提案できるかということになると思うので、時間は掛かるだろうがそのような努力を続けていかなければならないと考えている。

- ・このような分析結果は、研究者が研究を始め、数年後にその成果をまとめ、さらに半年から1年かけて論文として発表し、そのデータがその後2、3年の平均値として出てくるということなので、当然ながら現在の研究のアクティビティとはタイムラグが生じる。よってこの結果をそのまま出すと、今後の活躍が期待される若手研究者に対して違うメッセージを与えかねないという懸念があるため、伝え方をよく考えてほしい。

⇒ご指摘のとおり、本日お示しした分析結果は、既に成果を出している研究者のデータになっており、これから伸びていく若手のデータは拾えていない。研究を始めたばかりの若手研究者の研究力や伸びを分析するツールも入手しているので、それがどこまで使えるかはこれからの検討になるが、現在成果を出している研究者のデータとの両輪で分析を進めたいと考えている。また、その説明についても十分注意して行っていきたい。

- ・学生獲得の視点から作った現在の9領域を「研究領域」へ再編するとのことだが、それはどのようなスケジュール感で取り組まれているのか。

⇒年内におおまかな検討を終え、来年の春には研究領域のイメージを示すことができればと考えている。

⇒研究領域の再編は研究組織に関する議論だが、これと教育面とはどのように関係させるのか。つまり研究ベースで考えた集団と教育ベースで考えた集団とを一致させるのか、あるいは引き離すのか、その全体像があればお示しいただきたい。

⇒一研究科への統合によって、現在の領域でもハイブリッドな研究が展開しており、それに伴い、教育面、特に学位の取得に関しても、例えばマテリアルの教員の指導を受けながら情報の学位を狙うといったように、様々なパターンが可能となっている。まずは、研究領域としてどのような形がよいかということをお先行して議論しているが、その後、今の流れを引き継いだ柔軟な形での教育プログラムについて、検討を進めていきたい。

- ・データ分析の結果ではマテリアルがかなり頑張っているように見えるが、その割には学生からの人気がないと思うので、このギャップは直視していただきたい。大学と地域との関連でいうと、元々、北陸は繊維＝ファイバーに強いという特色がある。そういう意味でも、マテリアルにもう少しスポットを当てて、ファイバー系という特徴を出していくような方向性もあるのかなと感じた。

⇒今のところ研究成果としては、マテリアルがある程度リードしているという分析結果が出ているので、それと学生の教育をうまく紐付けできるような教員採用を意識していきたい。

また、地域産業界への貢献についても、地域の特色をJAISTとしてもうまく活用できるような取り組みを進めていきたい。

- ・大学の研究というのは、本来個々の研究者の知的好奇心に基づいて行われるもの。それを研究の成果として資金の獲得ばかりを強調すると、お金が出るところの領域にすり寄っていき、自分が本来やりたい領域ではない研究を行う研究者が増えるおそれがあり、これは長い目で見ると望ましいことではない。よって、教員へのメッセージの発信の仕方をよく注意してほしい。

⇒項目を区別し、十分に気を付けて説明していきたい。

<審議事項>

1 学内規則の一部改正

- ・大学評価に関する規則の一部改正について

大学戦略・広報室長から、大学評価に関する規則の一部改正について、資料3に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

- ・職員就業規則等の一部改正について

人事労務課長から、職員就業規則等の一部改正について、資料4に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

<報告事項>

1 令和2年度会計監査人の選任について

監査室長から、令和2年度会計監査人の選任について、資料5に基づき報告があった。

2 令和2年度入学者数について

教育支援課長から、令和2年度入学者数について、資料6に基づき報告があった。

3 創立30周年記念行事について

総務課長から、創立30周年記念行事について、資料7に基づき報告があった。

4 最近の本学の活動状況及び本学に関する新聞報道について

大学戦略・広報室長から、最近の本学の活動状況及び本学に関する新聞報道について、資料８－１及び８－２に基づき報告があった。

<その他>

1 次回の開催について

議長から、次回の本協議会の開催を令和２年１１月１９日（木）に予定している旨の説明があった。

資料

- 1 第８７回経営協議会議事要録（案）
- 2－１ 担当業務について（永井理事）
- 2－２ 担当業務について（飯田理事）
- 2－３ 担当業務について（水田特別学長補佐）
- 2－４ 担当業務について（丹副学長）
- 2－５ 担当業務について（内平副学長）
- 2－６ 担当業務について（塚原副学長）
- 3 大学評価に関する規則の一部改正について（案）
- 4 職員就業規則等の一部改正について（案）
- 5 令和２年度会計監査人の選任について
- 6 令和２年度入学者数について
- 7 創立３０周年記念行事記念式典等について
- 8－１ 最近の本学の活動状況について
- 8－２ 報道された本学関係記事